

平成 28 年 度  
事 業 報 告 書

自 平成 28 年 5 月 1 日  
至 平成 29 年 4 月 30 日

公益財団法人長尾自然環境財団

# 目 次

<b>I 目的、事業、財務基盤および財団の運営課題と対策実施</b> .....	2
<b>II 事業実績</b> .....	3
1 総合研究・活動事業 .....	3
(1) ラオスにおける水田生態系の重要性を認識するための環境教育活動 .....	3
(2) ラオスの開発と環境に係る予備調査 .....	3
(3) メコン-チャオプラヤ河流域における生物多様性の保全とワイズユース .....	3
(4) ミャンマーにおける生物多様性研究の基礎支援活動 フィージビリティ調査 .....	6
2 研究助成事業 .....	6
(1) 平成 28 年度の助成実績 .....	6
(2) ラムサール条約事務局と連携する長尾湿地基金の新設 .....	7
(3) 新たな支援を目指した国際連携研究助成の新設 .....	8
3 人材養成事業 .....	9
(1) 奨学金支給実績 .....	9
(2) 奨学生等の研修・活動支援 .....	11
4 普及・広報活動 .....	11
5 国際機関との協力・支援及び情報収集 .....	11
<b>III 法人の概況</b> .....	12
1 役員等に関する事項 .....	12
2 職員に関する事項 .....	12
<b>IV 役員会等に関する事項</b> .....	13
1 理事会 .....	13
(1) 平成 28 年度 第 1 回通常理事会 平成 28 年 6 月 14 日開催 .....	13
(2) 理事長及び常務理事の選定に関する提案書 平成 28 年 7 月 6 日提案 .....	13
(3) 平成 28 年度 第 2 回通常理事会 平成 29 年 4 月 12 日開催 .....	13
2 評議員会 .....	14
(1) 平成 28 年度 定時評議員会 平成 28 年 7 月 5 日開催 .....	14
3 常勤理事の役員会 .....	14
4 役職員連絡会 .....	14
<b>V 公益認定等委員会に関する事項</b> .....	15
1 定期提出書類等の作成等 .....	15
2 変更届出 .....	15

## I 目的、事業、財務基盤および財団の運営課題と対策実施

当財団は平成元年の設立以来、開発途上国等における自然環境保全のための自然科学分野の調査研究および保全事業等の実施、途上国の専門家・研究者等が実施する調査研究および保全事業等への助成ならびに将来の自然環境保全の担い手の養成を支援することにより、開発途上国等の自然環境保全に寄与するとともに、自然環境保全についての調査研究上の国際協力を推進し、もって地球環境の保全に資することを目的として以下の3つの公益目的事業を実施してきた。

1. 「総合研究・活動事業」では、平成18年度から第一期事業（平成22年度までの5カ年）として、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムの4カ国において、「メコン-チャオプラヤ河流域の二次的自然環境の保全とワイズユース」を目的として、現地の協力機関とともに調査研究と保全活動を実施した。さらに平成23年度から、第一期事業の成果および残された課題を踏まえ、内容をさらに発展させた第二期事業として、「メコン-チャオプラヤ河流域における生物多様性の保全とワイズユース」を5カ年計画で実施し、同27年度で終了した。
2. 「研究助成事業」では、アジア・太平洋地域等の開発途上国を対象に、当該地域の自然環境保全およびそれを担う人材の養成を目的として、現地の専門家等が自国で実施する調査研究や学術出版、保全・教育活動を支援してきた。平成28年度から、ラムサール条約事務局と連携してアジア・オセアニア地域のラムサール条約に加盟した開発途上国が行う湿地保全等の活動を支援する長尾湿地基金、日本等の研究者の協力を得てアジア・太平洋地域の開発途上国の研究者が行う自然環境保全に資する調査研究を支援する国際連携研究助成を開始した。
3. 「人材養成事業」では、アジア・太平洋地域の開発途上国を対象に、次代の自然環境保全の担い手の養成を目的として、自国の大学および大学院で自然環境保全にかかわる分野を専攻する当該国の学生に奨学金を支給するとともに、自然環境保全にかかわる学生の研修・交流活動を支援してきた。平成28年度からバングラデシュで人材養成事業を開始した。

平成24年5月1日、公益法人の制度改革に則り、公益財団法人に移行し、公益目的事業の財源には、引き続き基本財産である投資有価証券の運用益を主に充当してきた。

平成24年度後半より、保有する投資有価証券の配当による収入が想定以上に増加し、25~27年度の各決算で公益目的事業に黒字が生じた。この状況に対して、平成26年度以降、従来の事業の枠内で事業を追加することにより、27年度の剰余金を解消した。28年度の決算では、公益目的事業に黒字が生じた。

## II 事業実績

### 1 総合研究・活動事業

#### (1) ラオスにおける水田生態系の重要性を認識するための環境教育活動

当財団は、急速な経済成長が進むラオスにおいて環境保全に貢献する活動と考え、平成 19～27 年度まで、ラオス国立大学環境科学部（FES）の教員と学生の団体（SEED）がラオス農林省畜水産局ナムスワン養殖開発センターと NPO 法人アジア農山漁村ネットワークと協力して実施したラオスの小中学生や教員を対象とした水田生態系の重要性を認識するための環境教育活動を支援してきた。これらの活動に携わった SEED の学生は、野外で調査を行う知識や技術の習得、小学校の児童や教員に環境教育を行う技術の習得、小冊子やポスター等環境教育の教材作成を行い、卒業後は教員、環境保全に関連する機関に就職した。

本年度当財団は、FES の教員と SEED がビエンチャン県のムン郡とトゥラコム郡で実施する児童や教員を対象とした水田生態系の重要性を認識するための環境教育活動を支援した。FES の教員は当財団に活動報告書を提出した。これまでの支援をとおして、当財団は所期の目的を達したと考え、本年度末で支援を終了した。

#### (2) ラオスの開発と環境に係る予備調査

武石礼司東京国際大学教授は、水田生態系の重要性を認識するための環境教育活動への参加をとおして、ラオス国立大学環境科学部（FES）の教員を対象とした調査研究プログラムを実施する必要があると考えた。当財団も総合研究・活動事業をとおして、4 カ国の現地協力機関の研究者、大学等教員等への研修を兼ねた調査研究プログラムの必要性を認識し、実施してきた。

本年度当財団は、武石教授の協力を得て、FES の教員と SEED の学生がビエンチャン首都圏、ビエンチャン県で行う開発と環境に係る予備調査を支援した。

武石教授は、調査に係わる各教員に調査での役割分担、調査実施とスケジュールの管理、予算執行の管理、データの分析や報告書の作成等について指導や助言を行うとともに自身が担う分野の調査を行い、3 月下旬にラオス国立大学で調査結果等を報告するシンポジウムを開催した。FES の教員および武石教授は当財団に報告書を提出した。

#### (3) メコン - チャオプラヤ河流域における生物多様性の保全とワイズユース

##### 1) メコン - チャオプラヤ河流域における絶滅危惧魚類の保全活動

総合研究・活動事業第二期の活動の一つとして、平成 26 年度より経団連自然保護基金（KNCF）の助成金を活用する 3 カ年事業「メコン河下流域とその周辺水域における絶滅危惧魚類の保全」を実施した。KNCF の助成金の活用は平成 26 年度だけである。

##### <アロワナの保全>

当財団は、第二期事業をとおして、インドシナ半島南西部のカルダモン山地のタイ

ランド湾側斜面を流れる数河川において、アジアアロワナの生息調査を行い、カンボジア国内では 3 河川、タイ国内では 1 河川で生息を確認した。本種の保全について、カンボジアでは国際 NGO のコンサベーション・インターナショナル (CI) が生息地保全に向けた新規事業を計画中で、当財団との情報共有を開始している。当財団は、カンボジアにおいて平成 27 年 5 月同種の生息地の現地調査を行い、稚魚を 14 個体捕獲した。捕獲した稚魚をシムリアップ淡水魚研究所で一定期間、屋内水槽で飼育した後、シムリアップの公設タクビル養殖センターの止水養殖池で飼育している。

当財団は、本年度もタクビル養殖センターで本種の飼育を継続した。平成 26 年 5 月に捕獲した本種の稚魚は捕獲後約 2.5 年を経た 29 年 1 月 31 日時点で体重約 400~800g、全長約 36~43cm に達しており、成熟個体に成長したと考えられる。本年 5 月頃には産卵が確認される可能性がある。

本活動を通して、同種は止水養殖池において飼育可能であり、約 3 年で産卵可能なサイズに達することが確認された。当財団は、現地政府がこの活動を継続するために水産庁養殖局長と協議を行った。同局長は、今後職員が研究活動を継続できるよう措置を講じると述べた。ただし、カンボジアの政府予算は、大半が人件費に充てられ、研究活動予算の大半はドナーによるプロジェクト関連活動に限られる。同局長は生物多様性保全に係る助成金の申請先としてナショナル・ジオグラフィックのアジアグラントを考えているようである。

#### <パンガシウス科とコイ科に属する絶滅危惧魚類の保全>

パンガシウス科とコイ科はメコン河流域の漁業資源として最も重要なグループである。この中で、特に絶滅危惧の程度が高い種とされるパンガシウス科魚類は *Pangasianodon gigas* と *Pangasius sanitwongsei* であり、国際自然保護連合 (IUCN) では CR(critically endangered)とされている。また、*Pangasianodon hypophthalmus* は漁業および養殖の一般的な対象種であったが、現在は自然の水域で激減しており、IUCN では EN(endangered)とされている。一方、コイ科魚類では大型種の *Catlocarpio siamensis* (CR)と *Probarbus jullieni* (EN)が重要な保護対象種とされている。

前年度までのカンボジア・プノンペンにおける流下仔稚魚のモニタリングをとおして、*P. hypophthalmus* と *C. siamensis* が 6~7 月にプノンペン周辺の本流で産卵していることが確認された。仔魚および初期の稚魚では、特定の種を選別抽出することは困難であるため、養殖池で 1~2 カ月飼育した後、同定を行った。その結果、上記 2 種が含まれていることがわかった。多くの魚種について養殖池内で 2 カ月後の生残率が高いことも確認された。

本年度も養殖池で飼育を継続し、平成 28 年 6 月 10 日に標本採集を行った。*P. hypophthalmus* では、26 年 7 月 15 日に捕獲・放養した稚魚が成長した個体 (約 2 歳) 82 標本を捕獲・計測したところ、平均体重は 2,636 g (範囲 : 1,900~3,500 g)、平均標準体長は 54.9 cm (範囲 : 45~60 cm) に達していた。27 年 7 月 18 日に放養した個体 (約 1 歳) 26 標本を捕獲・計測したところ、平均体重は 274.2 g (80~540 g)、平均標準体長は 26.3 cm (範囲 : 17~34 cm)であった。*C. siamensis* は 27 年放養個体だけに含まれており、1 歳魚標本 11 個体を捕獲・計測したところ、平均体重は 22.9 g (個体ごとの体重計測は行わなかった)、平均標準体長は 9.55 cm (範囲 : 8.0~11.5 cm) であった。

*P. hypophthalmus* は養殖の一般的な対象種であるが、本活動をとおして、天然由来の稚魚が成長することが明らかとなった。同種は自然水域で保全対象であるとともに養殖開発の対象種である。養殖における重要性は天然魚の保全を推進する動機付けとなるので、当財団は、養殖局と内水面漁業資源開発研究所 (IFReDI) が協働すること（例えば、IFReDI が捕獲した天然稚魚を養殖用および育成後同じ水系に再放流するリストック用とすることを養殖局に要請する、IFReDI が行う天然水域での調査に養殖局職員が参加するなど）を提案した。

#### ＜プノンペンの流下稚魚＞

当財団は平成 27 年度で流下稚魚のモニタリング調査を終了した。IFReDI は 29 年 6 月から 10 月までメコン委員会の資金を得て、プノンペン周辺の流下仔稚魚のモニタリングを再開する計画である。稚魚の大量流下は 7 月から 8 月に集中することが確認されているため、モニタリング調査に問題はない。当財団のモニタリング調査をとおして、現地政府が継続調査を行う際に有効な方法論を確立することができたと考える。これまでの稚魚標本は、魚種ごとに整理され、IFReDI の魚類標本室に保存されている。今後現地政府がこれらの標本を研究に活用することが望まれる。

### 2) 第二期事業のまとめ

総合研究・活動事業第二期の活動をまとめた報告書を作成中である。カンボジアの魚類 FGB について、原稿作成を終了し、河野理事の助言のもと、最終確認を行っている。タイ東部の魚類 FGB について、ウボンラチャタニ大学の担当者が原稿の最終確認を行っている。タイ北部の魚類 FGB について、メージョー大学の担当者は同地域の魚類相の大半を占める骨鰈類（主にコイ目とナマズ目）の原稿を書き終えている。ラオスの魚類 FGB について、同国立大学の担当者は原稿の最終確認を行っている。インドシナメコンの魚類図鑑について、当財団は英語原稿の校閲を行い、担当者は原稿を作成中である。

### 3) 国際会議・シンポジウムへの参加および 4 カ国会合の開催

平成 28 年 5 月中旬のアジア魚類多様性会議（台北で開催）のメコン河に特化したシンポジウムにおいて、第二期事業に係わる 4 カ国の現地協力機関の主要研究者が各国の成果等の発表を行った。また、4 カ国会合を開催し、各機関の自立発展を促すとともにフォローアップを含めた当財団の今後の協力の在り方について意見交換を行った。各参加者は、長尾財団とのプロジェクトをとおした現地協力機関への効果等を語り、同様の活動を継続するだけでなく、発展的な段階に進むために、プロジェクト終了後も 4 カ国の現地協力機関のネットワークを維持する努力を行うことで一致した。

タイ・ウボンラチャタニ大学のチャイウット氏は同大学に予算申請を行い、ベトナム・カントー大学の学生をウボンラチャタニ大学に招き、魚類学と多様性調査に関する研修活動を実施した。カントー大学のディン氏はアメリカの博物館と関係を強化し、メコン河の魚類標本の維持管理について自助努力を開始した。また、同大学の博士課程の学生が同地の魚類多様性に関するテーマで研究を開始した。ラオス国立大学では、メコン河の魚類に興味を抱く学生が増加しているという。本プロジェクトの効果等が現れるには、時間がかかるものと思われる。

#### (4) ミャンマーにおける生物多様性研究の基礎支援活動 フィージビリティ調査

インドシナ半島に暮らす人々の食生活は、今も水田、河川、湖沼など水辺の生き物（水辺の幸）に支えられているところが大きい。当財団は、総合研究・活動事業を通じて、一般財団法人自然環境研究センターにメコン河流域の水辺の幸調査を委託した。同センターは同流域の人里で食用利用される生物を調べ、成果の一つとして、水辺の幸図鑑（日本語、英語）を作成した。

当財団は、ミャンマーにおいて生物多様性研究を支える人材養成に必要な環境整備を行うことを検討しており、インドシナ半島の水辺の幸調査で知見を積んだ自然環境研究センターに同国で人材養成に必要な環境整備に関するフィージビリティ調査を委託した。同センターは、ミャンマーの教育の現状や生物多様性研究の現場の状況を知り、生物学への動機付けを行う道具類の整備、環境教育の資料整備、指導者育成の活動を行う基盤をつくるため、同国の関係機関を訪問し、各種の情報収集を行い、報告書を提出した。

## 2 研究助成事業

### (1) 平成 28 年度の助成実績

#### 1) 新規申請

若手研究者や博士課程の学生を対象とした研究助成(1～2年の計画で50万円まで助成)と、申請者の研究成果の出版を支援する学術出版助成(1年計画で100万円まで助成)を継続して実施した。

応募要領を当財団ホームページに掲載し、平成27年10月20日から平成28年10月17日を応募期間として申請書の募集を行った。2回の受付期間中(表1)に、合計18カ国から174件の申請書が提出された。外部の学識経験者で構成される研究助成選考委員会(表2)にて厳正なる審査を行い、9カ国23件総額10,843千円の助成を決定した。

採択された新規申請の研究対象を表3に、申請内容、助成先および支給金額を別紙「平成28年度研究助成事業実績一覧」に示した。

平成元年の設立以降平成29年4月末までに助成した案件は、25カ国延べ447件である。

表1 本年度の申請書の受付期間および委員会開催日

	受付期間		委員会開催日
第1回	平成27年10月20日	から平成28年4月18日	平成28年6月24日
第2回	平成28年4月19日	から平成28年10月17日	平成29年1月13日

表2 研究助成選考委員

氏名	現職
河野 博	東京海洋大学教授
桜井 尚武	元日本大学教授
永田 信	東京大学元教授
福山 研二	森林総合研究所フェロー
米田 政明	元一般財団法人自然環境研究センター研究主幹

表3 採択された申請の実施国と研究対象

研究対象 \ 実施国	インドネシア	スリランカ	ネパール	フィリピン	ブータン	ベトナム	マレーシア	ミャンマー	モンゴル	研究対象別合計
動物										
哺乳類	1			1	1		2			5
鳥類			1		1				1	3
両生類・は虫類		1								1
節足動物	1				1	2	1		1	6
刺胞動物	1			1						2
植物										
草本類	1	1								2
その他										
人と自然の関わり	1		1			1		1		4
国別合計	5	2	2	2	3	3	3	1	2	23

## 2) 継続申請

平成16年度から平成23年度に募集した次の4つの助成プログラム（研究助成／小規模調査研究助成／学術出版助成／活動・教育助成）では、複数年にわたる研究等活動を採用した場合、事務局が活動年度ごとに進捗報告と次年度の計画を確認し、継続の可否を判断してきた。

これまでに継続申請が行われなかった7名に、再度継続する意思の照会と報告書提出を求めた。このうち、5名から継続を行わない旨の連絡と終了報告書の提出があった。回答がない2名については、支援を打ち切るとともに、引き続き報告書の提出を求めている。

## (2) ラムサール条約事務局と連携する長尾湿地基金の新設

本プログラムは、本年度から5年計画で、当財団がラムサール条約事務局と連携して、ア



ジア・オセアニア地域のラムサール条約に加盟した開発途上国が行う湿地保全等の活動を支援するものである。

プロジェクト1件当りの助成期間は最長2年、助成額は上限1.8万米ドルとし、年間3件から4件（総額1千万円以内）を採択する。

平成28年8月から同条約事務局が公募を開始し、12月末の締め切りまでに6件の応募があった。同条約事務局と当財団が検討した結果、1件（モンゴル）の支援を決定した。

### （3）新たな支援を目指した国際連携研究助成の新設

当財団はこれまでアジア・太平洋地域の開発途上国における自然環境保全を担う人材の養成や支援を行ってきた。しかし、現地研究者への資金的・技術的支援が、依然不十分なことが指摘されている。一方、日本国内の大学等の研究機関においても、当該地域における野生動物や自然生態系の保全等に貢献する研究が減少傾向にあるとも指摘されている。

本プログラムは、本年度から10年計画で、当財団が日本等の研究者の協力を得て、アジア・太平洋地域の開発途上国の研究者が行う自然環境保全に資する調査研究を支援し、同地域の自然科学分野の若手人材の育成および研究水準の向上を目指すものである。

当財団は、以下の有識者11名からヒアリングを行い、助成対象となる者の要件、研究内容、実施期間、助成額、募集方法、プログラムの実施年数および財源措置（特定費用準備金を積立）等を検討した。また、平成28年12月1日日本プログラムの運営委員会を開催した。

- ◆ 哺乳類：松林尚志准教授（東京農業大学）
- ◆ 鳥類：上田恵介名誉教授（立教大学）
- ◆ 魚類：河野博教授（東京海洋大学）  
プラチャー・ムシカシントン博士（タイ、カセサート大学）
- ◆ 昆虫類：矢後勝也氏（東京大学総合研究博物館）
- ◆ 森林：藤間剛氏、梶本卓也氏、野田巖氏、佐藤保氏（森林総合研究所）
- ◆ ミャンマー：大西信吾氏（元JICAプロジェクト業務調整員、1年の大半を同国滞在）
- ◆ 野生動物：安田雅俊氏（森林総合研究所）

当財団は、平成28年11月森林総合研究所の藤間剛氏に本プログラムのプロジェクト・コーディネータ（PC）を委嘱し、同研究所理事長宛に藤間氏の年末年始の海外出張依頼文書を郵送した。藤間氏はインドネシア・東カリマンタン州東クタイ県にある東クタイ農科大学カランガン演習林において、支援対象者のスギアルト博士（Dr. Sugiarto, Researcher and Lecturer, College of Agricultural Sciences, Kutai Timur）と研究計画（東カリマンタン州のカランガンの石灰岩地域に成立する低地林の樹種組成と昆虫相）および研究スケジュール等を協議した。

当財団は、平成29年1月以降、河野博氏をとおして、島根大学汽水域研究センターの堀之内正博准教授と連絡を行い、同氏をPCとして、タイのプラサート・トングヌイ博士（Dr. Prasat Tongnunui, Assistant Professor, Faculty of Science and Fisheries Technology, Rajamangala University of Technology Srivijaya, Trang Campus）が行う研究（潮間帯海草藻場は魚類群集にどのような機能を果たしているのか）を平成29年度から開始することとした。

当財団は、平成29年2月森林総合研究所の安田雅俊氏に本プログラムを説明する機会を得た。その後安田氏はマレーシアを訪問し、平成5（1993）年設立の公立マレーシア・トゥ

ン・フセイン・オン大学（UTHM）で保全生物学・野生生物学を専攻する Adlil Ikram bin Sharuddin 氏（修士課程 2 年、本年 9 月博士課程進学予定）と面会し、同氏の研究テーマについて聴取を行った。また、マレーシア工科大学（UTM）の地理学およびデジタル地球科学センターに所属するポスドクで観光科学・環境科学を専攻する Dr. Muna Maryam binti Azmy と面会し、同氏の研究テーマについて聴取を行った。帰国後、安田氏は当財団に現地で面談した若手研究者に関する報告を提出した。

### 3 人材養成事業

#### (1) 奨学金支給実績

ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジア、バングラデシュの 5 カ国において奨学金の支給を行った。本年度支援した奨学生の総数は 357 名、うち新規受給者 207 名（学部生 160 名、大学院生 47 名）、継続受給者 150 名（学部生 111 名、大学院生 39 名）であった（表 4）。本年度の奨学金支給事業費は総額 17,672 千円である。

各国の奨学生数を表 4 に、奨学金支給に関わる手続き、各国の事業内容を以下に記した。

平成元年の設立以降平成 29 年 4 月末までに奨学金を支給した奨学生数は、9 カ国延べ 5,443 名である。

表 4 各国の奨学金支給月額および受給した学生数

国名	1人あたりの支給月額 (円)	新規受給者(名)		継続受給者(名)		合計 (名)
		学部生	大学院生	学部生	大学院生	
ベトナム	大学院生 7,000		40		30	70
ミャンマー	学部 1~5 年生 3,000	20		23		57
	大学院生 7,000		5		9	
ラオス	学部 2~4 年生 3,000	40		50		92
	大学院生 7,000		2			
カンボジア	学部 2~4 年生 3,000	50		38		88
バングラデシュ	学部 2~4 年生 3,000	50				50
合計(名)		160	47	111	39	357

#### 1) 奨学生の募集及び選考の手続き

平成 28 年 4 月の第 2 回通常理事会で承認された平成 28 年度事業計画書および同収支予算書に従い、当財団は本事業の対象 5 カ国の現地協力機関に対し、本年度の奨学金支給予定者数（新規および継続）を連絡した。新規奨学生候補者の選考について、各国の現地協力機関が、事業対象とする大学への広報、候補者の募集、選考会の開催や書類審査、面接等を行った。また、奨学金を継続受給する学生の審査についても、現地協力機関が、学期または年度毎に学業成績の確認や面接を行い、判断のうえ、結果を当財団に報告した。

## 2) 各国の事業内容

### ベトナム（平成5年度開始）

ベトナム国立大学ハノイ校自然資源・環境中央研究所（Central Institute for Natural Resources and Environmental Studies: CRES）を現地協力機関とし、現地の大学院で学ぶ修士課程の大学院生に奨学金を支給する。

本年度は、新規採用の40名を含む合計70名に奨学金を支給した（表4）。平成28年度中に奨学金支給が終了した大学院生12名全てが修士課程を修了した。その後の進路の内訳は、大学等研究機関職員6名、教師1名、行政職員1名、一般企業2名、博士課程進学1名であった。

理事長他が人材養成事業他の情報収集のため昨年9月にCRESを訪問した。

### ミャンマー（平成10年度開始）

森林資源環境開発保全協会（Forest Resource Environment Development & Conservation Association: FRED A）を現地協力機関とし、現地の対象大学 University of Forestry（5年制）の学部生、同国内の大学院生に奨学金を支給する。

本年度は、新規採用の学部1年生20名、大学院生5名を含む合計57名（学部生43名、大学院生14名）に奨学金を支給した（表4）。平成27年度までに奨学金支給が終了した大学院生について、政府機関や大学等への就職が報告されている。平成24年度以降に卒業した学部生の就職状況について、現地協力機関が情報収集中である。

### ラオス（平成16年度開始）

ラオス国立大学（National University of Laos: NUOL）を現地協力機関とし、同大学で学ぶ学部2年生から4年生、大学院生に奨学金を支給する。

本年度は、新規採用の学部2年生40名、大学院生2名を含む合計92名に奨学金を支給した（表4）。平成28年度中に奨学金支給が終了した学部4年生25名全てが卒業し、うち19名が就職等した。内訳は、行政機関3名、研究・教育機関6名、民間企業等10名であった。

### カンボジア（平成23年度開始）

カンボジアの王立農科大学（Royal University of Agriculture, Cambodia: RUA）を現地協力機関とし、現地の対象3大学で学ぶ学部2年生から4年生に奨学金を支給する。

本年度は新規採用の2年生50名を含む合計88名に奨学金を支給した（表4）。平成28年度中に奨学金支給が終了した学部生10名全員が卒業し、うち7名が、大学や国際機関、NGO、民間企業等等で職員またはボランティアとして働いている。

### バングラデシュ（平成28年度開始）

下記の5大学で構成されるバングラデシュ NEF 委員会を現地協力機関とし、各大学で学ぶ2年生から4年生に奨学金を支給する。

本年度は5大学で新規採用の2年生、合計50名に奨学金を支給した（表4）。

- Bangabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural University
- Bangladesh Agricultural University

- University of Dhaka
- Jahangirnagar University
- Sher-e-Bangla Agricultural University

理事長他が本年 2 月に 5 大学の奨学生が行う発表会に出席し、現地協力機関と今後の事業に関する意見交換を行った。

## (2) 奨学生等の研修・活動支援

### 1) ラオス

ラオス国立大学環境科学部の教員等が行う奨学生を対象とした研修交流事業を支援した。平成 28 年 5 月 25 日から 26 日に実施し、奨学生 36 名が参加した。学部毎の活動発表や、意見交換を通じて、奨学生等は交流した。

### 2) カンボジア

カンボジアの王立農科大学他 2 大学が行う奨学生を対象とした研修交流事業を支援した。平成 28 年 5 月 29 日から 31 日に実施し、奨学生 46 名が参加した。グループ毎に取り組む課題や、フィールド実習、活動発表、意見交換を通じて、奨学生間・大学間での交流を行った。

### 3) インドネシア

当財団の現地コーディネータがスマトラ島北部の **Gunung Leuser** 国立公園および周辺地域の活動調査地域において活動する現地 NGO 職員等と生態系調査を行い、自然情報マップ等の作成を指導監督した。既に作成した植物生態写真集とあわせて、これらを教材とした環境教育のための普及啓発活動を指導した。

また、現地コーディネータはバリ島等東インドネシアにおける次代の自然環境保全の担い手の育成を目指し、自然環境を保全するための現地活動を対象として、今後支援する可能性を検証する調査を行った。

## 4 普及・広報活動

当財団は、事業の目的や内容を国内外の関係者・機関に広く周知するために、財団のホームページ (<http://www.nagaofoundation.or.jp>) の情報を適宜更新するなどの広報活動を行った。

## 5 国際機関との協力・支援及び情報収集

当財団は、今後の事業を効果的に展開するために、現在の事業内容および活動実績を各国際機関に説明し、アジア・太平洋地域の開発途上国における調査研究助成および人材養成支援に関するニーズについて情報収集し、連携、協力に向けた協議を行った。

また、当財団は、財団法人国立公園協会の寄付金を用いて、環境省（日本）が国際自然保護連合と協力して昨年 7 月タイのバンコクで開催したアジア保護地域パートナーシップ第 2 回運営委員会へのアジア地域の開発途上国参加者に旅費等の支援を行った。

### III 法人の概況

#### 1 役員等に関する事項

(平成 29 年 4 月 30 日現在)

役職	氏名	常勤・非常勤の別	備 考
理事長	大塚 柳太郎	常勤	東京大学名誉教授
評議員	石田 貴文	非常勤	東京大学教授
同	鹿野 久男	非常勤	元財団法人国立公園協会理事長
同	篠原 徹	非常勤	滋賀県立琵琶湖博物館館長
同	高橋 進	非常勤	共栄大学特任教授
同	永田 信	非常勤	東京大学元教授
同	福山 研二	非常勤	森林総合研究所フェロー
同	松島 昇	非常勤	NPO 法人フィールドリサーチ理事長
常務理事	菰田 誠	常勤	
理事	河野 博	非常勤	東京海洋大学教授
同	幸丸 政明	非常勤	東京環境工科専門学校校長
同	桜井 尚武	非常勤	元日本大学教授
同	関(丹野)礼子	非常勤	立教大学教授
同	長尾 榮次郎	非常勤	丸三証券株式会社代表取締役会長
監事	安藤 達彦	非常勤	東京農業大学教授
同	川井 佳和	非常勤	ひばり会計事務所代表社員

役職	氏名	常勤・非常勤の別	備 考
顧問	多紀 保彦	非常勤	東京水産大学名誉教授
同	山瀬 一裕	非常勤	一般財団法人自然環境研究センター専務理事

#### 2 職員に関する事項

財団の職員構成は、研究員 2 名である。

## IV 役員会等に関する事項

### 1 理事会

#### (1) 平成28年度 第1回通常理事会 平成28年6月14日開催

- 第1号議案 平成27年度事業報告書案の件  
(自 平成27年5月1日 至 平成28年4月30日)
- 第2号議案 特定費用準備資金(長尾湿地基金)保有の件
- 第3号議案 特定費用準備資金(国際連携研究助成)保有の件
- 第4号議案 平成27年度財務諸表案の件  
(自 平成27年5月1日 至 平成28年4月30日)
- 第5号議案 運用基盤強化資金への組み入れの件
- 第6号議案 丸三証券株式会社第96期定期株主総会(その継続会又は延会を含む)に関する議決権行使の件
- 第7号議案 評議員会の日時、場所及び議事に付すべき事項の件
- 第8号議案 顧問の選任の件
- 報告事項 理事長及び常務理事の職務の執行状況  
監事の監査報告  
その他

#### (2) 理事長及び常務理事の選定に関する提案書 平成28年7月6日提案

#### (3) 平成28年度 第2回通常理事会 平成29年4月12日開催

- 第1号議案 平成28年度補正収支予算書案の件  
(自 平成28年5月1日 至 平成29年4月30日)
- 第2号議案 平成28年度補正予算に係る特定費用準備資金(総合研究・活動事業)の取崩計画額変更案の件
- 第3号議案 平成28年度補正予算に係る特定費用準備資金(国際連携研究助成)の取崩計画額変更案の件
- 第4号議案 平成28年度補正予算に係る特定費用準備資金(長尾湿地基金)の取崩額の件
- 第5号議案 平成29年度事業計画書案の件  
(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
- 第6号議案 平成29年度収支予算書案の件  
(自 平成29年5月1日 至 平成30年4月30日)
- 第7号議案 平成29年度収支予算に係る特定費用準備資金(総合研究・活動事業)の取崩計画案の件
- 第8号議案 平成29年度収支予算に係る特定費用準備資金(研究者育成支援;旧名称は国際連携研究助成)の取崩計画案の件
- 第9号議案 平成29年度収支予算に係る特定費用準備資金(長尾湿地基金)の取崩計画案の件

- 第 10 号議案 事務局長の任命の件
- 第 11 号議案 顧問の選任の件
- 報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況  
その他

## 2 評議員会

(1) 平成 28 年度 定時評議員会 平成 28 年 7 月 5 日開催

- 第 1 号議案 平成 27 年度財務諸表案の承認の件  
(自 平成 27 年 5 月 1 日 至 平成 28 年 4 月 30 日)
- 第 2 号議案 次期理事及び次期監事の選任の件
- 第 3 号議案 その他
- 報告事項 平成 27 年度事業内容  
(自 平成 27 年 5 月 1 日 至 平成 28 年 4 月 30 日)  
平成 28 年度第 1 回通常理事会の決議内容  
その他

## 3 常勤理事の役員会

当財団は運営状況、各種事業の進捗状況を確認し、課題などに対処するため、月 2 回程度、常勤理事等の役員会を開催した。開催月日は以下のとおりである。

- |                        |                           |                          |
|------------------------|---------------------------|--------------------------|
| ( 1 ) 平成 28 年 5 月 12 日 | ( 9 ) 平成 28 年 10 月 3 日    | ( 1 7 ) 平成 29 年 1 月 31 日 |
| ( 2 ) 平成 28 年 6 月 6 日  | ( 1 0 ) 平成 28 年 10 月 20 日 | ( 1 8 ) 平成 29 年 2 月 16 日 |
| ( 3 ) 平成 28 年 6 月 23 日 | ( 1 1 ) 平成 28 年 11 月 7 日  | ( 1 9 ) 平成 29 年 3 月 3 日  |
| ( 4 ) 平成 28 年 7 月 7 日  | ( 1 2 ) 平成 28 年 11 月 18 日 | ( 2 0 ) 平成 29 年 3 月 16 日 |
| ( 5 ) 平成 28 年 7 月 26 日 | ( 1 3 ) 平成 28 年 11 月 30 日 | ( 2 1 ) 平成 29 年 3 月 29 日 |
| ( 6 ) 平成 28 年 8 月 18 日 | ( 1 4 ) 平成 28 年 12 月 15 日 | ( 2 2 ) 平成 29 年 4 月 7 日  |
| ( 7 ) 平成 28 年 8 月 31 日 | ( 1 5 ) 平成 29 年 1 月 5 日   | ( 2 3 ) 平成 29 年 4 月 20 日 |
| ( 8 ) 平成 28 年 9 月 15 日 | ( 1 6 ) 平成 29 年 1 月 18 日  |                          |

## 4 役職員連絡会

当財団は各種事業の進捗状況を確認し、課題などに対処するため、適宜役職員連絡会を開催した。開催月日は以下のとおりである。

- ( 1 ) 平成 28 年 6 月 22 日

## V 公益認定等委員会に関する事項

公益法人は、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するために活動することが求められ、その事業運営において透明性が確保されていなければならない。このような観点から、公益法人は、事業計画、事業報告等に関する書類の作成・提出・開示が求められている。

### 1 定期提出書類等の作成等

当財団は、事業報告等に係る提出書類を作成し、以下のとおり、公益認定等委員会に提出した。

平成 28 年度第 1 回通常理事会および同定時評議員会の審議を経て、平成 27 年度事業報告等に係る提出書類を作成し、当該事業年度経過後 3 箇月以内となる平成 28 年 7 月 28 日に電子申請を用いて提出した。

また、平成 28 年度第 2 回通常理事会の審議を経て、平成 29 年度事業計画等に係る提出書類を作成し、毎事業年度開始の日の前日までの平成 29 年 4 月 27 日に電子申請を用いて提出した。

### 2 変更届出

当財団は、以下のとおり、公益認定等委員会に変更届出を行った。

当財団は、平成 28 年度定時評議員会（7 月 5 日開催）において、次期理事および次期監事を選任した。理事新任を踏まえ、東京法務局で登記を行った後、8 月 15 日に電子申請を用いて理事の変更届出（理事新任）を行った。

また、当財団は、平成 28 年 8 月 1 日に電子申請を用いて研究助成事業の枠内に長尾湿地基金、国際連携研究助成を追加する変更届出を行った。



## 平成 28 年度研究助成事業実績一覧

別紙

調査研究助成 (23 件) 合計 10,843,750 円

国名	研究者名	所属先	研究課題 (英文・仮和訳)	助成期間	助成額
インドネシア	Mega Sari APRINIARTI	Bogor Agricultural University	The beetle pollinator of snake fruit in Sumatra, Indonesia インドネシアのスマトラ島におけるサラカヤシの花粉を媒介する甲虫	11 か月	490,000 円
インドネシア	Iyan ROBIANSYAH	Indonesian Institute of Sciences	Inventory and conservation of inselberg flora in Purwakarta, West Java, Indonesia インドネシア西ジャワ州 Purwakarta における島状丘の植物相の目録と保全	1 年	497,750 円
インドネシア	Ellena YUSTI	Natural Aceh Research Institution	Composition and diversity of bats (fruit eating bats and insect eating bats) in the agricultural areas and lowland forest of Seulawah Mountain Region, Aceh Besar, Aceh, Indonesia インドネシア、アチェ・ベサル、スーラワ山地の農地・低地林における食果・食虫コウモリの種構成と多様性	4 か月	500,000 円
インドネシア	Widiastuti KARIM	Udayana University	Phylogenetic diversity and susceptibility to thermal stress of coral's photosynthetic dinoflagellate symbiont ( <i>Symbiodinium</i> spp.) from Bali's endemic coral <i>Acropora suharsonoi</i> バリ島固有のサンゴ ( <i>Acropora suharsonoi</i> ) と共生する褐虫藻 ( <i>Symbiodinium</i> spp.) の系統的多様性と温熱ストレスへの感受性	11 か月	500,000 円
インドネシア	Dina Wahyu TRISNAWATI	University of Muhammadiyah Yogyakarta	Study on the effects of organic and conventional paddy fields on biodiversity of aquatic and terrestrial organisms 有機稲作および慣行稲作が水田の水生・陸生生物の多様性に及ぼす影響の把握	1 年	429,000 円
スリランカ	Ranil Haddokara Gedara RAJAPAKSYA	University of Peradeniya	Diversity of fern flora of Pidurutalagal Mountain in Sri Lanka スリランカの Pidurutalagal 山のシダ相の多様性	1 年	432,000 円

国名	研究者名	所属先	研究課題（英文・仮和訳）	助成期間	助成額
スリランカ	Dinal Jerome SAMARASINGHE	Environmental Foundation Limited	Population density, size structure and breeding ecology of <i>Crocodylus porosus</i> in Sri Lanka スリランカにおけるイリエワニ ( <i>Crocodylus porosus</i> ) の個体群密度、体サイズ構成および繁殖生態	1年	500,000円
ネパール	Prabin BHUSAL	Forest Action Nepal	Availability of tree cavities in Sal forest of Chitwan National Park and community forests in Nepal ネパールのチトワン国立公園およびコミュニティ林における森林の樹洞の有用性	1年	324,000円
ネパール	Sabita GURUNG	Small Mammals Conservation and Research Foundation	Assessment of diet composition, prey abundance and conservation threats of Barn owl along the urban-rural gradient in Kathmandu Valley, Nepal ネパールのカトマンズ渓谷における都市から農村の環境軽度に沿ったメンフクロウの食餌構成、餌動物の多様性、保全上の脅威の評価	1年	499,000円
フィリピン	Steve Michael Tovilla ALCAZAR	Cebu Technological University-Argao Campus	Diversity of cave bats and threats to their habitats and forest ecosystem on Cebu Islands, Philippine フィリピンのセブ島における洞窟性コウモリの多様性とその生息地および森林生態系への脅威	1か月	320,000円
フィリピン	Ephrime B METILLO	Mindanao State University-Iligan Institute of Technology	Diversity of jellyfish and associated symbionts in the Philippines フィリピンにおけるクラゲとその共生生物の多様性	1年	481,000円
ブータン	Tshering DORJI	Ministry of Agriculture and Forest	Habitat modeling, ecology and conservation threats of hornbills in Royal Manas National Park, Bhutan ブータンのロイヤル・マナス国立公園におけるサイチョウの生息環境のモデル化、生態、保全上の脅威	1年	499,000円

国名	研究者名	所属先	研究課題（英文・仮和訳）	助成期間	助成額
ブータン	Lha TSHERING	Royal Government of Bhutan	Distribution and dietary analysis of Himalayan black bear ( <i>Ursus thibetanus</i> ) in Phrumshingla National Park, Bhutan ブータンの Phrumshingla 国立公園におけるツキノワグマ ( <i>Ursus thibetanus</i> ) の分布と食物分析	2 年	480,000 円
ブータン	Tshering DORJI	Royal University of Bhutan	<i>Epiophlebia laidlawi</i> and other odonata larval distribution and conservation threats in Jigme Singye Wangchuck National Park ブータンのジグミ・シンゲ・ワンチュク国立公園におけるムカシトンボ科のトンボ ( <i>Epiophlebia laidlawi</i> ) と他のトンボ類の幼虫の分布と保全上の脅威	18 か月	499,000 円
ベトナム	Toan Quoc PHAN	Duy Tan University	Assessment of species diversity and conservational status of stream-dwelling damselflies (Odonata: Calopterygoidea) in Vietnam ベトナムの河川に生息するイトトンボ (Odonata: Calopterygoidea) の多様性と保全状況の評価	13 か月	494,000 円
ベトナム	Viet Luong NGUYEN	Vietnam Academy of Science and Technology	Mangrove forest monitoring and its linkage to socio-economic condition in Can Gio Mangrove Biosphere Reserves, Ho Chi Minh City, Viet Nam by integrating remote sensing, GIS, and participatory field surveys リモート・センシング、GIS、住民参加型調査によるホーチミン市の Can Gio マングローブ生態圏におけるマングローブ林モニタリングと社会経済状況	18 か月	455,000 円
ベトナム	Phong Huy PHAM	Vietnam Academy of Science and Technology	Taxonomic study on sphecid wasps of the family Sphecidae (Hymenoptera: Apoidea) in the northwestern Vietnam ベトナム北西部におけるアナバチ科昆虫 (Hymenoptera: Apoidea) の分類学的研究	2 年	500,000 円

国名	研究者名	所属先	研究課題（英文・仮和訳）	助成期間	助成額
マレーシア	Vijaya Kumar SUBBIAH	Universiti Malaysia Sabah	Distribution and genetic diversity of the Asian Horseshoe crab populations in Sabah, North Borneo  ボルネオ島北部サバ州におけるアジアカブトガニ個体群の分布と遺伝的多様性	2年	499,000円
マレーシア	Cindy PETER	Universiti Malaysia Sarawak	Threat assessment and cetacean behavioural responses to the threats in Kuching Bay, Malaysia  マレーシアのクチン湾における脅威に対する鯨類の行動反応と脅威評価	1年	495,000円
マレーシア	Siti Sarayati ABD MAWAH	Universiti Teknologi MARA	Sun bear viability in a fragmented landscape: genetic diversity and parasite infection of Malayan sun bear ( <i>Helarctos malayanus</i> ) in Sabah, Borneo, Malaysia  分断された生息環境におけるマレーグマ ( <i>Helarctos malayanus</i> ) の生存能力—マレーシアのボルネオ島サバ州におけるマレーグマの遺伝的多様性と寄生虫感染—	2年	498,000円
ミャンマー	Kay Khine NYEIN	University of East Yangon	Economic valuation of wetland resources in Myanmar: a case study of Inle Lake Wildlife Sanctuary in Southern Shan State  ミャンマーにおける湿地資源の経済性評価—南シャン州のインレー湖野生動物保護区の事例—	1年	465,000円
モンゴル	Batchudur BAT-AMGALAN	Mongolian Academy of Science	Diversity, habitat and indicators of the saproxylic beetle in the boreal forest of Tuul-Barkh circle  Tuul-Barkh Circle の北方林における食材性甲虫の多様性、生息地とその指標	2年	497,000円
モンゴル	Gantulga BAYANDONOI	Mongolian Academy of Sciences	Population status and breeding ecology of the globally threatened Relict Gulls ( <i>Larus relictus</i> ) in Mongolia  絶滅が危惧されるモンゴルのゴビズキンカモメ ( <i>Larus relictus</i> ) の個体群の状況と繁殖生態	18か月	490,000円